

硫黄島滑走路地区等における調査結果について

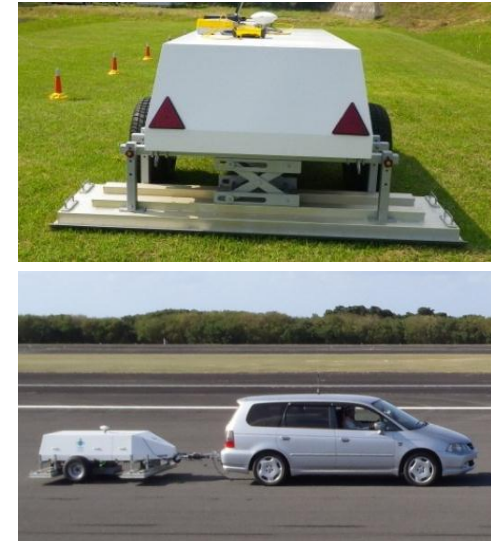
～御遺骨・壕の存否を確認する調査～

平成26年3月26日
防 衛 省

高性能地中探査レーダの概要

<概要>

- 防衛省が硫黄島の滑走路下における地下壕及び遺骨の存否を確認することを政府内で取り決め
- そのためには、公共工事で一般に使用されている地中探査レーダで調査が可能な深さよりも深い位置で調査する必要がある、高性能地中探査レーダを新たに開発
- 平成24年度及び25年度に同レーダを用いて、滑走路地区等の調査を実施



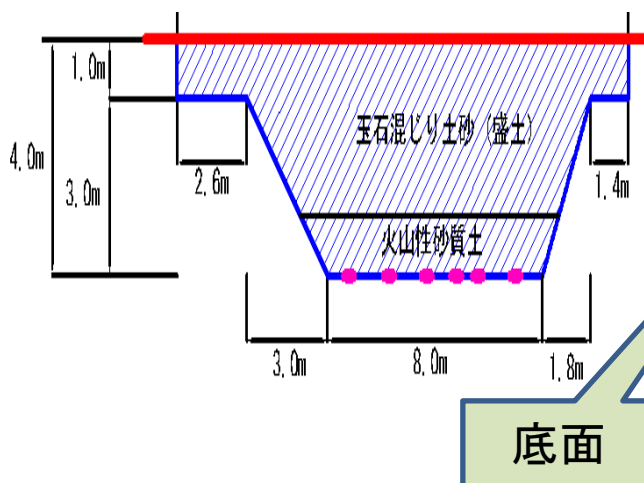
探査モード	探査深度	探査対象
地下壕探査モード	地下10m	50cm規模の空洞
御遺骨探査モード	地下4m	直径3cmの円柱状のもの (大腿骨を想定)

高性能地中探査レーダ(御遺骨)における探査対象について

遺骨収容においては、大腿骨1対をもって1柱と整理していることから、当該探査レーダにおいても大腿骨(直径3cmの円柱状のもの)を想定し、御遺体が埋まっていた場合、複数の御遺骨があると考えられることから、「直径3cmの円柱状のもの以上のもの」を対象に探査を実施したところである。

なお、当該探査レーダの開発段階において、ブラインドテストにより人骨標本、獣骨及び石を埋設し、性能確認したところ、これらを探知したところである。

○ 遺骨標本埋設図



○ 遺骨標本埋設写真



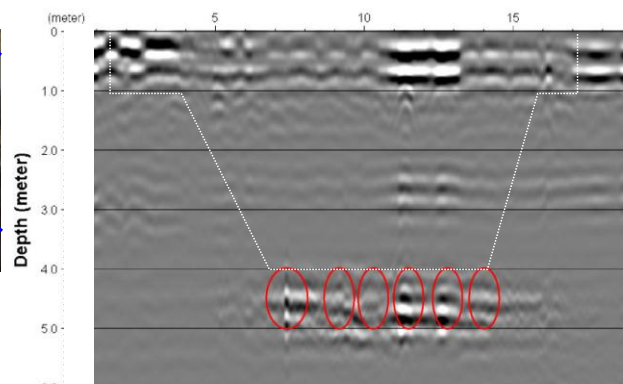
開削底面写真(地表から撮影)



遺骨標本

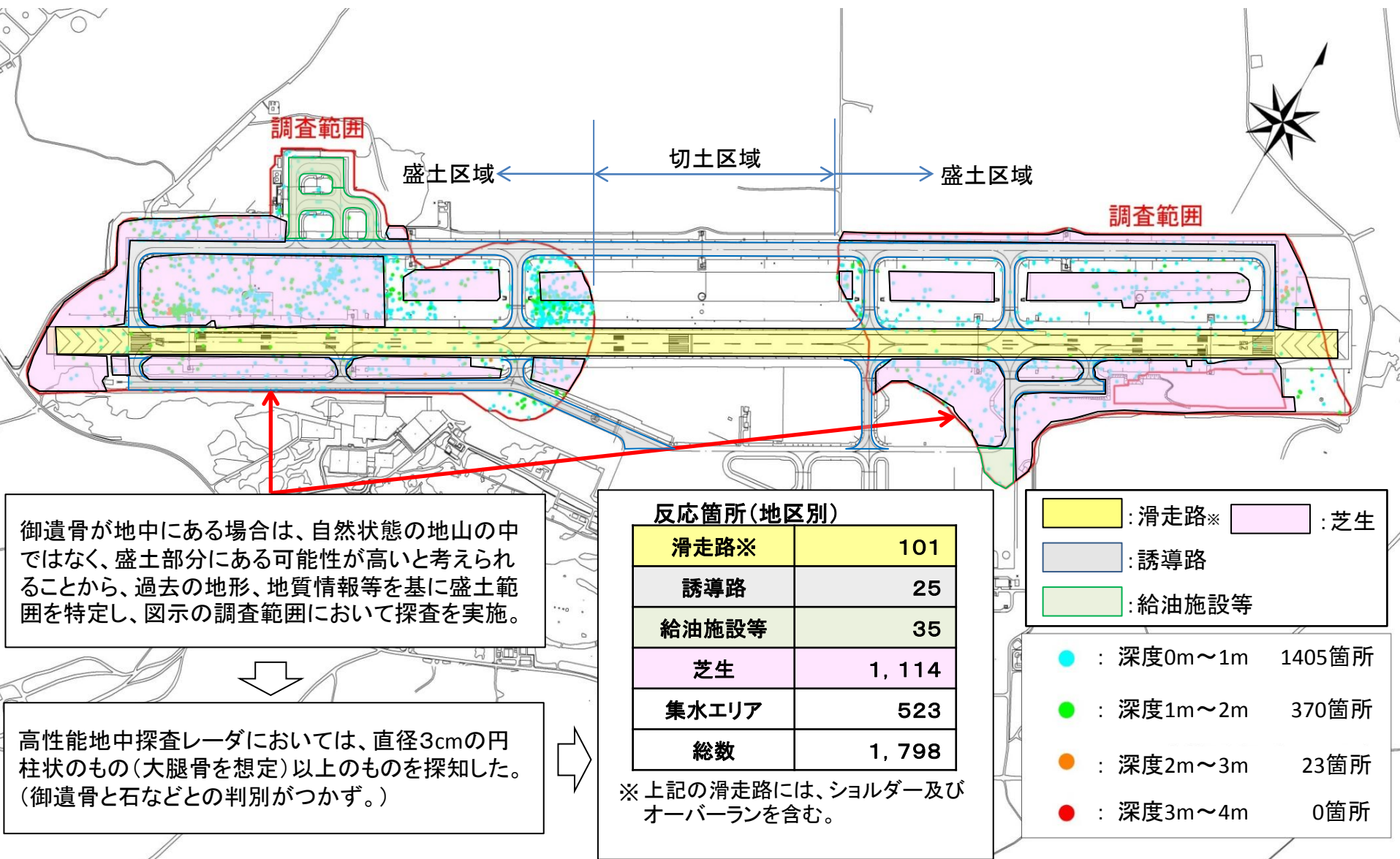
(大腿骨、頸骨、上腕骨)

○ 遺骨探査能力確認結果



○:各埋設物の反応

高性能地中探査レーダ(御遺骨)の調査結果について【滑走路地区】



高性能地中探査レーダ(御遺骨)の調査結果について【庁舎地区】

【滑走路地区】

御遺骨が地中にある場合は、自然状態の地山ではなく、盛土部分にある可能性が高いことから、過去の地形、地質情報等を基に盛土範囲を特定し、調査を行い、平成25年12月6日に調査結果を公表した。

調査範囲

【庁舎地区】

滑走路地区と異なり、盛土範囲と切土範囲が混在しているため、庁舎地区全体を調査範囲とした。

ただし、建物下及びその周囲については、建物基礎の工事段階で、基礎を固い地盤まで掘り下げて確認していることから対象外とした。そのため、道路下や建物間の空地の調査を実施。

高性能地中探査レーダにおいては、直径3cmの円柱状のもの(大腿骨を想定)以上のものを探知した。(御遺骨と石などの判別不可。)

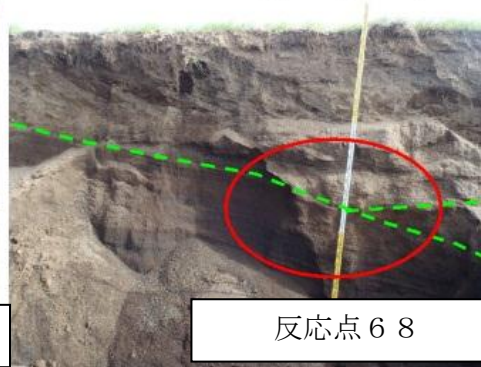
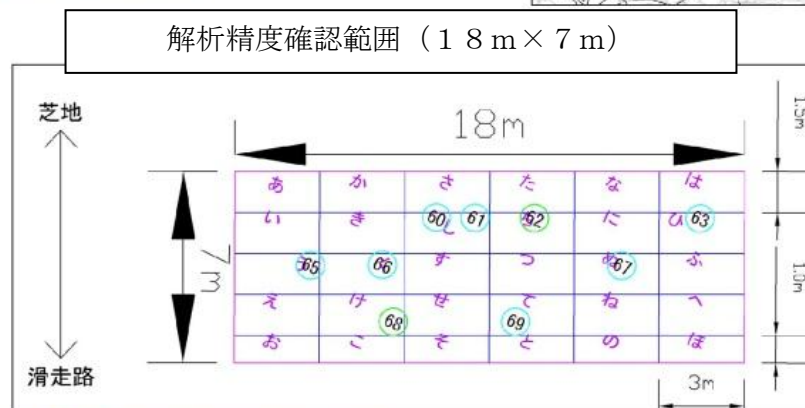
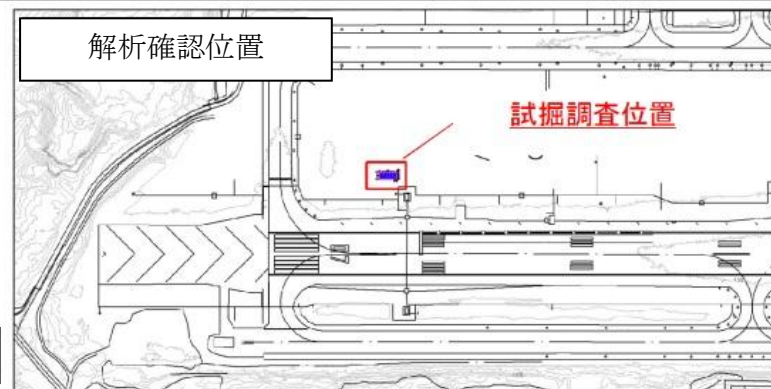
反応箇所数

1,559

凡 例

- : 深度0m～1m 1,207箇所
- : 深度1m～2m 334箇所
- : 深度2m～3m 11箇所
- : 深度3m～4m 7箇所

高性能地中探査レーダ(御遺骨モード)反応点の試掘調査の結果



解析精度確認範囲を30分割し、各区画を深さ1m毎に掘削を行い、ふるいにかけて確認。

⇒ 9か所の反応点のうち、8か所から実際に固形物が発見され、かつ、それらは全て石であった。

(1か所(反応点68)は、地層の変化に反応した模様)